

簡単に楽しい遊びが広がる手作り遊具

—おひさま保育園の遊具研究の取り組みからの考察—

会津大学短期大学部幼児教育学科

郭 小蘭

非常勤講師 長谷川まち子

I. 問題と目的

0.1.2 歳児の発達を促す運動遊びに近年注目が集まるようになってきて、書籍が出版されるようになってきている（山本秀人，2018）。ところが、運動遊びに関する保育現場での実践研究が多くないのが保育の課題の一つである。特に待機児童解消対策として小規模保育事業が誕生したことで、身体を動かす環境（園庭の有無や室内の遊具）の乏しさが大きな問題となってきている。林陽子・白幡久美子らは小規模保育事業における保育環境の課題について保育従事者の意識を調査した。その中で戸外遊びの設備や遊具の種類や数の少なさに課題が多いことが示された（林陽子・白幡久美子，2019）。

これらの保育環境、特に運動発達を促す遊具の実態がどうなっているか、現場の保育実践者である保育者の創意工夫があるのか、興味関心のあるところであり、調査研究の必要性を感じる。保育者養成の教員としての筆者らは小規模保育園の実際の保育実践がどのように行われているかの調査研究の一環として、2021年に開園したおひさま保育園（A型）を翌年に見学させていただいた。このなかでおひさま保育園の園全体の保育環境の豊かさ、とくに簡単に楽しい遊びが広がる手作り遊具の独自性に興味を持ち、本研究に取り組み始めた。このような考えに基づき、本研究では小規模保育園の運動発達の遊具の実態に関する実践事例として、喜多方市おひさま保育園の簡単に楽しい遊びが広がる手作り遊具の事例について考察することを目的にする。本研究に取り組む意義は小規模保育園の保育環境の実態に関する研究が少ない中、身体を動かす遊具は実際にどのようなものかについて示唆を得ることができる点である。

II. 調査方法

- 1.調査対象：福島県喜多方市にあるおひさま保育園園長と主任
- 2.調査期間：2022 年 8 月
- 3.調査方法：半構造化インタビュー調査法
- 4.調査内容：①子どもの人数と職員の人数と保育年数，②園の室内と園庭の広さ，③園にある運動遊びの遊具の種類（市販・手作り），手作り遊具の数④粗大運動と微細運動の手づくり遊具の写真，素材選定と製作上の工夫，⑤遊び方（子どもたちの日常生活での姿が写っている写真から）。
- 5.研究倫理：園からの同意書と園を通して得られた保護者の同意書を得ること，子どもの顔をぼかして個人を特定できないようにすることなどの対応を行った。

III. 保育環境と手作り遊具の製作

1. おひさま保育園の保育環境の概要

おひさま保育園は 2021 年 4 月に開園された A 型小規模保育園である。0 歳児 5 名，1 歳児 7 名，2 歳児 7 名，計 19 名の子どもを給食担当職員 2 名，保育士 9 名（うちに 1 名看護師資格保有）の計 11 名の保育者が担当する。看護師を除いた 8 名の保育士の保育経験年数は 4 年から 41 年で，平均 29 年である。3 歳未満児のクラスの経験年数が 4 年から 26 年で，平均 19 年である。室内の広さは 225.62 m²，園庭面積は 172 m²である。遊具の数は市販の物 34 種類あり，手作りの物としては 38 種類の計 282 個を所有している。園の園庭ではアスレチックや滑り台，砂場があり，室内では比較的広いホールがあり，体を動かして遊ぶ環境がある。



図 1 園庭遊具

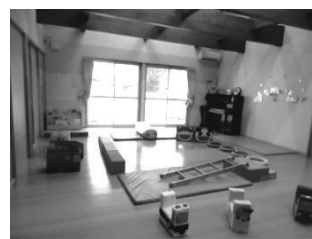


図 2 保育園のホール

2. 手作り遊具の製作例

手作り遊具の種類は全部で 38 種類あり，これらの遊具は全て生活用品やダンボール箱や牛乳パックなどの廃材を使って製作したもので，子どもたちの運動発達に即したものである。一つの遊具で月齢による異なる遊び方ができ，また他の遊具との組み合わせによる遊び方，異年齢同士での遊び方ができる。園では主体的に粗大運動や微細運動を楽しむ中で，一人ひとりの子どもの遊びに寄り添うことができる。ここで上の表にある以外の手作り遊具 10 点を取り上げ，素材選定と製作上の工夫，及び次章での遊び方の視点から事例を分析していく。

(1) プチプチシートのロールクッションの素材選定と製作上の工夫

ロール状の梱包材（大・中・小），カラー布テープを素材とし，カラー布テープをロール梱包材に放射線状に貼っていく。ここで，カラー布テープを貼る前にまず透明テープを貼って補強し丈夫にする。

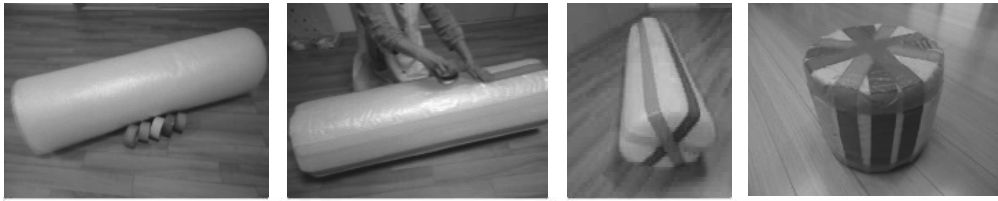


図 3 ロールクッションの製作

(2)牛乳パックのトンネルの素材選定と製作上の工夫(図 4)

牛乳パックとレジャーシート及び透明テープを素材とし，牛乳パックで形を作ってからレジャーシートで外側を包めていく。レジャーシートはクッション性があり，ぶつかった時の衝撃が少ない。また，水分をはじくので，消毒しやすい。

(3)ダンボール箱のぱっくんアニマルの素材選定と製作上の工夫(図 5)

硬くて丈夫なダンボール箱，色画用紙，透明テープ，両面テープを素材とする。丈夫なダンボール箱をカッターで三角状に切り，安全面に配慮し，切り口をテープでコーティングする。色画用紙で作った動物の顔を両面テープでダンボール箱に貼り付け，口の部分を切り取る。最後に，顔の部分を透明テープでコーティングする。



図 4 トンネルの製作



図 5 ぱっくんアニマルの製作

(4)キッチンセットの素材選定と製作上の工夫

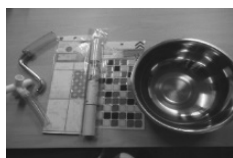


図 6 キッチンセットの製作



図 7 電子レンジの製作



図 8 冷蔵庫の製作

○キッチンセット：水道パイプ，パイプジョイント，リメイクシートとボールを素材とする。ダンボール箱にボールの大きさの穴をあけ，はめ込む。ダンボール箱全体にリメイクシートをはる。小さい箱に水道パイプをはめ込み，ダンボール箱に貼り付ける。

○電子レンジ：丈夫なダンボール箱，リメイクシート，タイマー，透明フィルム，タオルハンガー（取っ手）とマグネットを素材とする。ダンボール箱にリメイクシートを貼

り、扉部分に透明フィルム、取っ手、マグネット、タイマーをつける。

○冷蔵庫：丈夫なダンボール箱 2 箱、布ガムテープ（白）、リメイクシート（白）、マグネットとタオルハンガー（取っ手）を素材とする。ダンボール箱 2 箱を貼り合わせ、リメイクシートを貼る。扉部分に取っ手とマグネットをつけてスムーズに開閉できるようにする。

(5)ぽっとなおとしの素材選定と製作上の工夫（図 9）

ペットボトルキャップ、タッパー、ビニールテープ各色、ビーズとホースを素材とする。タッパーのフタに穴をあけ、ペットボトルのキャップ 2~3 個を組み合わせでビニールテープを貼れば簡単にできあがる。穴の大きさや容器を変えたり、いろいろな素材のものを入れたりするとより楽しく遊べる。切り口は、安全に配慮しビニールテープで覆うようにする。

(6)洗濯ネットのファスナーの開け閉め遊具の素材選定と製作上の工夫(図 10)

キルティングまたはフェルト生地、洗濯ネットと綿ロープを素材とする。キルティングまたはフェルト生地に、洗濯ネットや子どもの好きなキャラクターなどを縫い付ける。綿ロープを縫い付け、柵に下げられるようにする。中に入れたものが見えると出し入れする楽しみも広がる。いろいろな素材の物を用意する。ファスナーの向きや形の違う洗濯ネットの開け閉めも楽しむ。

(7)スナップやボタンのはめはずし遊具（バス・いえ）の素材選定と製作上の工夫(図 11)

布コースター、フェルト生地、スナップとボタンを素材とする。バスは布コースター 2 枚を縫い合わせる。家は三角形や四角形のフェルトを 2 枚重ねて縫い付ける。ボタン（タイヤ）やフェルト（窓）を付け、バスや家を作る。フェルトで作った動物や窓部分に、スナップをつける。スナップやボタンは、誤飲につながることをしないようしっかりと縫い付ける。簡単に洗って乾かすことのできる丈夫な布を選ぶ。



図 9 ポっとなおとしの製作



図 10 ファスナーの製作



図 11 スナップやボタンの製作

(8)ひも通しの素材選定と製作上の工夫

PP シート、ラップ芯と靴ひもなどを素材とする。ラップ芯を細かく切り、古くなった絵本を再利用し、挿絵を切り抜いて貼り付ける（透明テープで補強する）。パンチを使って、PP シートに穴を開ける。ひもの逆側は、抜け落ちないように結び目を作ったり、通

す物を結んでおく。子どもの発達や興味に合わせて、穴の大小、様々な形の物を用意する。

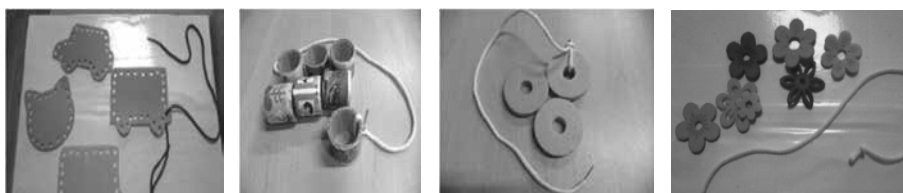


図 12 ひも通しの製作

(9)棒通しの素材選定と製作上の工夫

皿立て、ホース、糸芯、シュシュ、ラップ芯、ラップと古絵本、いろいろなものを多めに素材とする。ラップ芯を細かく切り、古くなった絵本の挿絵を切り抜いて貼り付ける（透明テープで補強する）。糸芯にプリント OPP テープを貼り補強する。ラップ芯には子どもが興味を持つ動物や虫、食べ物などの絵をはり、言葉のやり取りを楽しめるようにしている。



図 13 棒通しの製作

(10)サーキット遊びの素材選定と製作上の工夫

子どもの発達や動きに合わせて、組み合わせをかえながら遊ぶ。



図 14 サーキットの構成

IV. 手づくり遊具の事例分析

(1)プチプチシートのロールクッションの遊び方事例

またがったり、のぼったり、転がしたりして、いろいろな動きを楽しめるとともに、バランス感覚を育てる。0 歳児はつかまり立ちをしたり、つま先に力を入れて押したり、



図 15 ロールクッション遊び

転がしたりして遊んでいる。1 歳児は揺らしてあげると、落ちないようにしっかりとつかまっている。2 歳児はロールクッションに体当たりをしたり、よじ登ったり、バランスをとりながら立ち上がったり、トンネルにしてくぐったり、バスに見立てたりしていろいろな遊び方を楽しんでいる。身体を支える両腕の力、姿勢を保つ力を育て、股関節の柔軟性を高めることもできる。

(2)牛乳パックのトンネルの遊び方事例

のぼったりくぐったりジャンプしたりして、様々な動きを楽しむことができる。0 歳児は中に入ろうと足をかけ両腕両足で体を支えながら体勢を立て直し、入ることができるま



図 16 トンネル遊び

で工夫する。1 歳児は上手に上れたよ！友達と「ばあ～」と顔を出し合い、大はしゃぎしている。2 歳児は両足着地でジャンプができる。

(3)ダンボール箱のぱっくんアニマルの遊び方事例

動物の口にボールをいれたり、押し車にしたりして、いろいろな遊び方を楽しんでいる。それぞれの年齢に合わせ遊びが広がっている。0 歳児は押して歩くことを楽しんでいる。



図 17 ぱっくんアニマル遊び

る。1・2 歳児は「うさぎさん、パンダさん、どうぞ」と口にボールを入れて、繰り返し楽しんでいる。高いところに設置すると遠くから投げ入れたり、背伸びをして入れたりしている。

(4)キッチンセットの遊び方事例

子どもたちはままごと遊びが大好きである。イメージを広げながら、友達とのやりとりを楽しんでいる。指先遊びで使用したチェーンや縄跳びのロープ、デコレーションボール、



図 18 キッチンセット遊び

ペットボトルのキャップなども食べ物に見立てて遊んでいる。日常生活の様子を再現しながら、異年齢児と関わって楽しく遊んでいる。小さい子は初めお客様で見ているだけから、同じように遊びだすようになる。本物と同じように作られているので、野菜やお皿を洗っている気持ちになって喜んでいる様子が見られる。電子レンジや冷蔵庫も丈夫な段ボールが使われているので、しっかりと出し入れできてリアルで楽しい。大規模の保育園では人数が多いと、どうしても自分の欲しいおもちゃの取り合いになり、持っているだけで安心してしまふ子どもも見られる。少人数で遊ぶことは、遊びが発展し、十分に遊べたという充実感を味わえる。

(5)ぽっとなおとしの遊び方事例

穴に物を入れることが大好きな子ども達である。目と手の協応を高め、集中して遊ぶ力を育む。0歳児は「つかむ」から親指と人差し指、中指を使って「つまむ」ことができ



図 19 ぽっとなおとし遊び

るようになり、指先や手の平に力を入れて押し込んでいる様子が見られる。1・2歳児は「ネコさん、どうぞ」とスプーンで上手にすくって、動物の口の部分に食べ物を入れたり、食べ物の絵カードの向きをかえながら細長い穴（口の部分）に入れたりして楽しんでいる。また、パスタの保存容器に、立ちながらチェーンを入れるのはむずかしいが、集中して取り組んでいる。

(6)洗濯ネットのファスナーの開け閉め遊具の遊び方事例(図 20)

洗濯ネットのファスナーを開け閉めしたり、いろいろな素材の物（ボール、お手玉、ままごと遊び用食べ物など）を出し入れしたりして集中して遊んでいることが写真でもわかる。

0歳児はボールの出し入れを繰り返し楽しんでいる。1歳児は入れやすいように、左手でネットの入り口を広げながら、ボールを入れている。2歳児は左手でファスナーを押さえ、つまみをしっかりと持ちながら、開け閉めをしている。

(7)スナップやボタンのはめはずし遊具（バス・いえ）の遊び方事例(図 21)

指先を使って、スナップやボタンをはめたり、はずしたりする。細かい指先の作業は、集中力を養うだけではなくこの積み重ねは衣服の着脱にも役立っていると考えられる。1歳児はスナップをはずすことに夢中である。2歳児は「うさぎさん、バスにのります。お

うちに入ります」とお話ししながら、器用にスナップをはめたり、はずしたりしている。集中しながら、スナップの凹凸を合わせ、力を入れて押し込んでいる。



図 20 ファスナー遊び



図 21 スナップやボタン遊び

(8)ひも通しの遊び方事例(図 22)

目と手の協応、左右の手の協応を高め、集中力を養う。また、指先の発達を促す。0 歳児は微細運動の発達状態がひも通しはまだ難しい。1 歳児は目に指先を近づけながら、小さな穴にひもを通そうと集中して頑張っている。2 歳児は右手でひもを通して、左手でつまんで引っ張るという手指の操作がスムーズにできるようになり、指先を思い通りに動かせる喜びを味わっている。

(9)棒通しの遊び方事例(図 23)

目と手の協応、指先や手首、腕のコントロールする力を高め、集中力を養う。0・1 歳児はおとすことに集中している。ストンと落ちる感覚や積み上がっていく様子を楽しんでいる。指先に力を入れながら、シュシュをのばして皿立てに通している。2 歳児は集中してラップの芯を高く積み上げている。



図 22 ひも通し遊び

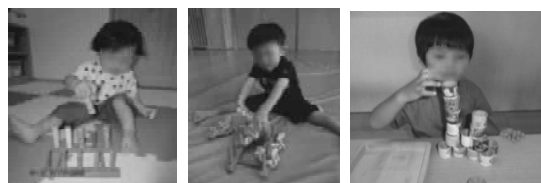


図 23 棒通し遊び

(10)サーキット遊びの遊び方事例

手作りおもちゃやマット、カラー積み木などを使って、登る、降りる、くぐる、跳ぶなどの様々な動きや姿勢を楽しみ、運動機能の発達を促す。その年齢とその日の状況によ



図 24 サーキット遊び

って、いろいろな組み合わせができるところが興味深い。それも、一つ一つの遊びがしっかりと毎日の遊びの中で出来ているので、この組み合わせ（サーキット遊び）が更に楽し

める。すべてが手作りでこのサーキット遊びが出来るのは、本当に遊具研究に力を一杯投入したと考えられる。

V. 保育士の3歳未満児の保育歴との密接な関係

このような豊かな遊びが生まれるのは保育士の長年の保育経験、特に3歳未満児の保育歴と密接な関係があるだろうと先行研究と40数年間大きな規模の保育園で働いていた筆者（長谷川まち子）の経験により推察する。

保育士に求められる主な専門性の一つは、子ども一人ひとりの実際の発達の姿及び心情を理解した上で具体的に計画的に総合的に保育を構想するスキルである。この専門性の習得は一人ひとりの子どもの実際の発達の姿及び先の発達の見通しを子どもの具体的な言動から読み取るスキルが必要である。複眼の視点で子どもを捉え、遊びを通して総合的に指導するスキルや知恵は長年の保育経験に伴って培われるものであろう。

先行研究では、石川恵美（2018）の研究は乳児保育における現状と課題を保育士等キャリアアップ研修に出席した保育士等を対象にアンケート調査を行った。日々の保育の中で勉強不足と強く感じていることとして3位に挙げたのは室内外の環境設定であった。斎藤政子・宮脇龍介（2014）の研究は3歳未満児保育における「もの」「空間」に対する保育者の意識を保育者歴・年代との関連に着目して調べた。保育者歴が長いほど、年代が高いほど「保育者の視野の広さが反映された環境」が保育の中で実施されている。藤澤啓子・中室牧子（2017）の研究は保育の質は子どもの発達に影響するのかについて小規模保育園と中規模保育園の比較を行った。1歳児クラスにおける保育環境を比較した結果、担当保育士の保育歴の長さは、1歳児後半に評価した子どもの発育状況に有意な正の関連が示された。

さて、おひさま保育園の場合はどうであろう。8名の保育士の保育経験年数は最短4年、最長41年、平均年数が29年である。特に3歳未満児クラスの経験年数が最短4年、最長26年、平均年数が11年である。保育士の乳児保育に携わってきた年数は大変長いという独自性がある。保育士の方々は令和3年4月に開園してから1年半の間に38種類で282個の手作り遊具を製作していた。これほど種類多く、一人ひとりの子どもに行き渡るほどの数、素材選定と製作上の工夫、手作り遊具の遊び方が大変ダイナミックであり、発達の連続性の考慮、多様な遊びの展開ができるようにしている。このような知恵は保育士の3歳未満児クラスの経験平均年数が11年であるとの関連があるのではないかと考えられる。生活の中に多様な素材がある。子どもの発達の姿や興味・関心を適切に把握している保育士は子どもに多様な経験を取り入れた保育を行うためには自分の豊かな経験に基づき、子どもの姿をイメージする力を活かして多様な素材を自分たちで有効な遊具に作りなおしていく。開仁志（2019：P103）は「素材を生かしてどう調理するか、これが素材の遊具

化です」という。保育士自身が素材の魅力，課題，経験できることをイメージして手作り遊具を作ってみる。子どもに手作り遊具を提供して，子どもの言動を観察する。子どもが何を感じ，何を学び，自分の思いをどのように表現していくかを観察して，手作り遊具を改善していく。おひさま保育園の保育士はこのように長年の経験を積み上げていく中で写真にある手作り遊具を作りあげたのだろう。

無藤隆・塚崎京子（2005）の「乳幼児保育・幼児教育の研究の動向と実践の課題」では，保育の研究および問題の動向の概要を整理するにあたり，実践現場の様子の解明，理論的な分析，時事的な話題と三つの軸を挙げた。本研究で明らかにされた小規模保育園の遊具研究の実態及びすばらしい手作り遊具の実践例は実践的示唆を導くことができ，実践現場の様子の解明につながるだろう。

VI. 本研究のまとめ

本研究では小規模保育園の運動発達の遊具の実態に関する実践事例として，喜多方市おひさま保育園の簡単で楽しい遊びが広がる手作り遊具の事例について考察した。小規模保育事業では身体を動かす環境，例えば園庭の有無や室内の遊具の豊富さが大きな問題となってきた中で，今回調査した保育園では，積極的に手に入りやすい生活用品などを再利用して手作り遊具を作ることで，経費の節約になること，また，製作者が想像力を働かせて自由に製作できるので，保育のねらいに合ったいろいろな遊具を製作でき，3歳未満児の豊かな感性を育てることに一役買うことができた。小規模保育園の保育環境の実態に関する研究が少ない中，身体を動かす想像を働かせる遊具製作の一つの非常に有意義な例と考えることができる。おひさま保育園の遊具研究の取り組みという事例を通して簡単に楽しい遊びが広がる手作り遊具を現場から数多く見つけることができた。これらの事例は保育現場に遊具づくりの知恵の提示，保育者養成段階では3歳未満児の発達や学びを運動発達の側面からわかりやすく教えることにも役立つのではないかと考えられる。今後このような保育実践研究の事例を増やしていくことが課題である。

引用・参考文献

- 藤澤啓子・中室牧子 2017 保育の「質」は子どもの発達に影響するのか ―小規模保育園と中規模保育園の比較から― RIETI Discussion Paper Series 17-J-001
- 福井渉 2021 3歳までに芽が出る，その子だけの個性 ―小さな子どものための小さな保育園― 株式会社クロスメディア・パブリッシング
- 林陽子・白幡久美子 2019 小規模保育事業における保育環境の課題 ―N 市内保育従事者の意識調査を通して― 岡崎女子大学・岡崎女子短期大学 研究紀要 52 131-140

開仁志 2019 はじめての保育実践研究 一芸社

石川恵美 2019 乳児保育における現状と課題 ―保育者のアンケートを手がかりに― 兵庫
大学短期大学部研究集録 54 1-8

無藤隆・塚崎京子 2005 乳幼児保育・幼児教育の研究の動向と実践の課題 子ども社会研
究 日本子ども社会学会紀要編集委員会 11 130-144

斎藤政子・宮脇龍介 2014 3 歳未満児保育における「もの」「空間」に対する保育者の意
識 ―保育者歴・年代との関連に着目して― 日本家政学会誌 65(6) 283-295

山本秀人編著 2018 0.1.2 歳児発達をおさえた運動あそび ―経験してほしい粗大運動・
微細運動― 株式会社学研教育みらい

謝辞

本研究の実施にあたり、おひさま保育園の先生方や保護者の皆様に多大な協力をいただきました。ここに記して深謝の意を申し上げます。